
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 326 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2012.01.12（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1190 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 新しい舞台に立とう 安富六郎

<山崎農業研究所 第 141 回定例（現地）研究会>

速報（要旨） その 3——宮城県農業・園芸総合研究所からの情報提供

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

<編集後記> 友からの年賀状に思う

<巻頭言> 新しい舞台に立とう

新年のご挨拶を申し上げます。

「新年」という言葉に私がこめているのは、例年のように単に「新しい年」ではなく「新しい舞台」という意味である。日本は戦後、すべてが廃墟の中から新しいものを創り出してきた。戦争を体験した者・戦後に生まれた者、共通の苦しきのなかでそうしてきた。善し悪しは問わず、そんな時代であったと思う。

戦後直後、人気のあったエノケン、古川ロッパ共演のユーモアある喜劇映画はその時の気持ちを癒すものであったと、今でも印象に残る。ラジオでは並木路子の歌った「赤いリンゴ」、青春映画「青い山脈」も励みになった。このような余裕が集まって、日本復興の元気につながったと思う。一方、農業政策では大きな勇み足もした。国際政治では多くの間違いもしてきた。これらの歪みを正すとしたら、いまその時期にあるような気がする。

今回の大震災は私には、あたかも第二の戦後であるように映る。従来の生活スタイル、ものの見方をもう一度、新しいスタートラインにおいてもよいだろう。そして、大量生産、大量消費時代とは別の、新しい価値観をもつ世界に

変える必要があると思う。「原発発電コストはまだ安い」と言った経済至上主義は引っ込んだ方がよい。原発に頼らず再生可能な自然エネルギーに力を入れるべきだ。

わが国の原子力は外国依存であり、原爆製造過程の産物である大量の濃縮ウランを利用している。食料の大半、石油、原発すべてが外国依存の中で、せめて食料だけは国産にしたいと思う。その身近なものに水田稲作農業がある。農業生産こそ再生可能な自然エネルギー利用そのものであり、日本再生復興の基本である。こんなささやかな夢も多く集まれば、きっと実現できる。とくにTPPは農業や震災復興の最大の障害となることを忘れてはならない。

希望とユーモアも忘れずに、余裕を持って、事が実現できるような新しい年、光の春にしたいものである。

安富六郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 第141回定例(現地)研究会> 速報(要旨) その3

期日:2011年11月25日(金)

場所:宮城県下 山元町および名取市

テーマ:震災被害地の状況視察とその取り組み、および復興への方向性を探る

参加者:17名

■速報(要旨) その3——宮城県農業・園芸総合研究所からの情報提供

当研究所は名取市でも西北部の山寄りの箇所に所在。会議室で河野副所長らから、今回の震災に対する「農業の早期復興に向けた試験研究連携プロジェクト」の取り組みを主に、情報提供をいただいた。

最初に、宮城県での被害額について。農業の被害額は5,000億円を超え、そのうちでも用排水機場等の損壊、農地浸水等が3,800億円と大きい。被害農地のうち除塩対策を要する面積14,300ha。いちご・野菜・コメ・大豆等の作物被害額は66億円である。

そこで当研究所では、県の他の農業関係の試験場所とも連携し、3カ年の計画で多くの課題のプロジェクト研究に取り組んでいる。ここでは、中間報告をまとめている二つの課題について。

(1)海水流入農地の実態把握と早期改善

この課題では、海水が流入した園芸作など畑作農地を対象に、堆積物の確認調査、土壌のEC等の測定による塩類濃度の測定調査、及び各種の方法による除塩効果確認試験等を行っている。

(2)震災による農業経営の実態把握と地域農業再生対策

この課題では、震災による直接的な被害状況、経営への影響、復興への取り組み状況、今後の農業復興に対する要望等について対面によるヒアリング調査を行っている。また、除塩対策実証圃においての作物導入等に係る経営試算をしている。

この2課題についての説明を拝聴後、こちらからの参加者一同と若干の意見交換の時間が持たれた。参加者からの意見として、用排水機場等の本格的な復旧がなされるのはこれからで、被災農地での営農はその後の再開になっていくが、担い手の再編も当然必要になってこよう、といったことなどが出された。

(文責：安富・石川)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.126』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.126』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

アグロノミストとして、太陽エネルギーの利用を考える◎塩谷哲夫

[第138回定例（現地）研究会]

小川光氏 山崎記念農業賞を祝う会

研究会——ものづくり・ひとづくり・むらづくり をめぐって

参加者の声 成尾和浩／永井智一／若松美香／益永八尋

〔第 139 回定例研究会〕循環型社会と農業——とくに畜産との関係から

I 安全・安心こそいのち——牛飼い雑記◎峯村富治

II 有機性資源の循環利用による土の健康

——総合的養分管理の重要性◎松村昭治

〔第 140 回定例研究会〕蘇れ、山と森と林

I 荒れ山を逆手にとれ！ 木のある暮らしの実践と楽しみ方◎大内正伸

II 荒れる人工林：森林管理から木材利用まで林業再構築をめざして◎鋸谷 茂

〈連載〉畦道・赤トンボのナショナルリズム [17]

科学とナショナルリズム／宇根 豊

<編集後記> 友からの年賀状に思う

年末床屋に行った際、年賀状のことが話題になった。店員さんは「わたしは今年は 2 枚だけ。あとはメールですよ」と言う。

昨年は 3.11 東日本大震災とそれに続いての東京電力福島第一原発事故に翻弄された。憂鬱に思う気持ちと何かせねばという気持ちとが交互に入れ替わる、そんな年でもあった。

わたしの場合、例年であれば年賀状は家族のカラー写真と年始のかんたんな挨拶が中心である。しかし昨年のことを考えるとどうもカラー写真というのとは違うように感じ、写真はセピア色に加工し、挨拶も去年の感想と今年への思いを長々と書いた。長々と、といってももちろんパソコンに頼ってのことである。年末 30 日までかかってようやく 70 枚ほど出した。

年明けいちばんに届いた年賀状のなかに、昔の同僚で、いまは仙台に暮らしながら JA に務める O 君からののがあった。「融資担当になって 2 年目。復興のために今年もがんばります」とある。震災後、いろいろと気になるところがあつてこちらから連絡をとらずじまいだった O 君からの年賀状は何よりうれしいものであった。

やはり昔の同僚で岩手県で暮らす O さんからの年賀状には、親しい友人の自宅が津波で流されたこと、さまざまなボランティア活動に参加したことが書かれ、「たくさんの苦しみを抱えながら皆ががんばっています」という言葉が添えら

れていた。

そんな友人たちの年賀状にはげまされながら新年を迎えることができたことはやはり「めでたい」ことなのだろう。

2012年01月12日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』
(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryō.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 326 号の締め切りは 01 月 23 日、発行は 01 月 26 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 326 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2012.01.12（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****